様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ７ 月 １５ 日現在

機関番号：３３１０７
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｈ０３１３５

研究課題名（和文）東南アジア大陸部の被戦争社会の変容とレジリエンス

研究課題名（英文）A Survey on the Transition and Resilience of a 'War-affected Society' on the Southeast Asian Mainland

研究代表者
瀬戸　裕之（Seto, Hiroyuki）

新潟国際情報大学・国際学部・准教授

研究者番号：９０５１１２２０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　14,020,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は，東南アジア大陸部地域を「長期にわたる戦争により地域住民の生活が大きな影響を被った地域（＝被戦争社会）」と位置づけ，この地域の社会変容を再考することを試みた研究である。戦争を経験した地域住民（特に戦争避難民，女性，少数民族，投降者）に対するインタビュー調査の結果，彼らは，戦争による移住や社会的分断を経験しながらも，移住後に異なった民族・宗教集団が共存する新たなコミュニティーを形成し，政府や軍に対して選択的に協力的/非協力的に対応し，地域で新たに商品作物栽培を展開するなど，戦争を契機とする新しい社会関係の構築と生業の展開を行っている事例が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の学術的意義は，東南アジア大陸部を「被戦争社会」と位置づけ，この地域の社会変化について，従来，調査・分析されることが少なかった戦争期と戦後期の変化の連続性といった点に着目し，避難民，女性，少数民族，投降者といった公的に記録されることがない戦争経験者の体験に基づいて再考する研究であり，この地域を戦争経験者の様々な生存戦略が生み出した社会であると捉える新たな視点を提示した。このように，戦争が地域住民の生活に与えた影響を明らかにすることは，日本を含めた戦争を経験した国々の戦後社会を理解する上での知見も提供すると考える。

研究成果の概要（英文）： This research project has attempted to review the transition of society on the Southeast Asian mainland.It is based on the hypothesis that this area is home to a 'War-affected society'in which the livelihoods of local people have been seriously impacted by long-term warfare. Data was collected from interviews with the war-affected,such as internally displaced persons, women,ethnic minorities and those who had surrendered.Despite hostilities which displaced people from their home land and divided local communities,analysis of the findings reveals that they managed to rebuild new social relations and new livelihoods during and after the war.Such efforts were seen in the creation of new multi-ethnic and multi-religious communities in areas to which they had relocated. Findings further show that they survived through making strategic choices between cooperation and resistance to state policy and armies, as well as engaging in cultivating commercial crops in the war and thereafter.

研究分野：東南アジア地域研究

キーワード：東南アジア　戦争　地域住民　避難民　女性　少数民族　投降者

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

東南アジア地域は，冷戦崩壊にともなって，1990 年代以降に東南アジア諸国連合（ASEAN）のメンバーが拡大し，2015 年には ASEAN 共同体を発足させるなど，経済的，社会的，政治的な結びつきが深まっている。特に，東南アジア大陸部（ベトナム，ラオス，カンボジア，タイ，ミャンマー）では，経済発展にともなった社会の変化と人の移動が活発化している。従来は，この地域の社会変容をとらえる枠組みとして,「社会主義型の計画経済から市場経済への移行過程」としてとらえる研究（Bruce 2006），あるいは，ラオス，カンボジアでは,「自給自足経済から市場経済への移行過程」としてとらえる研究が行われてきた（Rigg 2005）。

しかし，東南アジア大陸部は，1940 年代から 1990 年代の前半に至るまで，長く紛争地域として位置づけられ，地域住民たちは，第二次世界大戦，インドシナ戦争，ベトナム戦争，カンボジア紛争など，域外大国が大きく関与し，近代兵器を投入した大規模な戦争を経験した。その影響は，都市部だけでなく農山村地域にも及んでいる。2011 年に行った予備調査では，戦争による住民の移住が地域の住民構成，環境を大きく変化させ，地域社会に不可逆的な変化を生んだ可能性が明らかになった（河野・横山・瀬戸 2011）。従って，現代の東南アジア大陸部の社会形成過程を考察するためには，戦争・紛争がこの地域の社会構造と生態環境に与えた影響を分析し，戦争期から現在までの変化の連続性を明らかにすることが重要である。特に，戦争被災者は，爆撃・戦闘からの避難，強制疎開を経験しながらも，多くが国内にとどまり，戦後の地域社会の形成，国家の政策形成にも影響を与えたはずである。本研究では，戦争被災者たちが戦中，戦後に形成した社会構造と生業の特徴，戦争による生態環境の変化，戦争被災者と国家との関係について考察し，現在の東南アジアの農山村社会の形成過程に関する新たな分析軸を提供することを試みる。

第 2 に，本研究では，戦争被害を受けた地域住民が，戦争（災害）とそれによってもたらされた変化（リスク）に対してどのように応答し，戦後に新たな生業と社会ネットワークを形成したかを考察し，東南アジア大陸部諸国の地域住民が持つ，リスクに対する適応能力を「レジリエンス（Resilience；復活力）」という視点から分析を行う。近年，大規模災害に対する応答と復興について,「レジリエンス」の概念が注目されている。レジリエンスとは，あるシステム，企業，個人が負の衝撃を受けた後に，かつての元の状況に「回復」するのではなく，自らの力で新しい均衡状態へと移行することと，その条件に着目する概念である（ゾッリ 2013）。本研究では，この概念に基づいて，戦争被災者を，単に「被害者」として捉えるだけでなく，戦争災害に対する地域住民の応答と新しい生業の変化を，地域住民たちによる復興へのダイナミズムとして考察し，リスクに対する東南アジア大陸部地域住民の適応能力と，それを可能にしている条件を明らかにする。この作業によって，現在の世界各地の災害からの復興に対する教訓を提示することが可能であると考える。

２．研究の目的

本研究は，東南アジア大陸部地域を戦争から多大な影響を受けてきた「被戦争社会（War affected Society）」と位置づけ，戦争が各地の地域社会形成に及ぼしてきた諸作用やメカニズムについて比較・考察し，現代の東南アジアの農山村社会の形成過程に関する新たな分析軸を提示することを目的とする。具体的には，①戦争が東南アジア大陸部諸国の社会構造と生態環境に与えた直接的な作用，②戦中・戦後における地域住民の社会的ネットワークの形成および生業調整過程を検証し，地域住民が戦争とそれがもたらした変化（リスク）に対してどのように応答したかを解明する。さらに，この作業をとおして，東南アジア大陸部諸国の農山村地域に暮らす地域住民の持つレジリエンスの諸形態と特徴について明らかにする。

３．研究の方法

研究目的にも提示したとおり，本研究は，東南アジア大陸部の変容を分析する視点として，新たに「被戦争社会」という研究枠組みを提示した。これは新しい枠組みであり，現地調査を行いながらも，この分析枠組みや研究手法について，多くの議論を行った。

2015 年に本科学研究費を獲得後，2019 年までに研究会メンバーで合計 11 回の研究会を実施し，ミャンマー，タイ，ラオス，カンボジア，ベトナムの戦争と地域住民の対応について議論し，比較検討を行った。さらに，2017 年 7 月 8 日には東南アジア学会関西例会（京都大学），2018 年 1 月 27 日には東南アジア学会 2017 年度第 4 回関東例会（東京外国語大学），2018 年 5 月 12 日には日本ベトナム研究者会議（東京大学），2018 年 5 月 27 日には東南アジア学会第 99 回研究大会（北九州大学）において本研究メンバーによるパネル報告を実施し，広く東南アジア研究者から，研究の枠組みと各国の事例に対するコメントを受けて議論を行った。その結果，当初，研究枠組みとして検討していた「レジリエンス（resilience;復活力）」という概念ではなく，新たに「生存戦略」という概念を用いて考察することになった。

その理由は，当初は，戦争を経験した地域住民を被災者と仮定し，戦後の生活向上を「復活・復興」と考えることを想定していたが，調査対象地域における戦争に対する地域住民の対応は，実に多様であり，戦闘下における生存（survival）が重要だった場合，戦後の困窮に対する生計維持（subsistence）が重要だった場合など，大きな違いがあることが認識された。さらに，従来は想定していなかった「政府や軍の政策からの逸脱」といった,「復活・復興」といった概念ではとらえにくい行為も，地域住民の生存にとって重要であり，このような地域住民の対応が，

その後の地域社会の変化に影響を与えた可能性が認識されるようになった。その結果，分析枠組みの中心を，戦争に対する地域住民の「生存戦略」に変更し，それらの生存戦略が社会変容に与えた影響について考察することになった。

2015 年以降に共同研究を行う中で発展させた「被戦争社会」研究の分析枠組みは，次の通りである。

①「東南アジア大陸部の戦争」に対する認識

本研究会での議論を通じて東南アジア大陸部の戦争の特徴として認識できた点は，次の 3 点である。

第 1 に，この地域の戦争は，断続的に長期間にわたって継続した戦争だということである。東南アジア大陸部では，インドシナ戦争，ベトナム戦争，カンボジア紛争といった戦争が断続的に発生したことで，50 年あまりにわたって戦争が続いてきた。さらに，ミャンマーの少数民族地域では，現在に至っても紛争が継続している。

第 2 に，東南アジア大陸部の戦争は，複数の要素が重層的に関係しながら展開していた，という点である。東南アジア大陸部の戦争は，東西冷戦期（1947 年から 1990 年）に戦争が継続していたといえるが，主に 1945 年後半から 1950 年代半ばまでは，植民地からの独立が要因になっていた。1950 年代後半から 1970 年代はじめの時期には，東西冷戦の影響が強まり，ベトナムでも南北ベトナムという分断国家が建設され，戦争の規模も大きく拡大した。さらに，1970 年代後半から 1990 年代前半の時期になると，中ソ対立の影響や東南アジア各国の利害による地域紛争という性格が強くなっていた。

第 3 に，東南アジア大陸部の戦争は，国家や国境を越えた空間的な広がりを持つ戦争である，という点である。例えばベトナム戦争では，ラオス，カンボジア領内にホーチミン・ルートが建設されて北ベトナムから南ベトナムの戦場へと物資や兵士が供給される一方，アメリカ軍はタイの基地を使用して北ベトナムを空爆した。また，タイでは近隣国の共産主義者の支援によりタイ国共産党が国内で活動し，タイ北部山地では，中国国共内戦によりミャンマーを経由して流入した国民党軍の一部と，バンコクの政局の影響により山地に進出した右派勢力の「赤い野牛」の間で抗争が繰り返されるなど，近代国家が設定した国境を越えて相互に影響を与えながら展開されていた。

以上の点を踏まえて，長期の戦争が政治や経済だけでなく人々の生活や意識を変化させ，戦争を契機とする分断や協働を生み出すなど，社会全体に大きな影響を与えた可能性があること，冷戦がもつイデオロギー対立としての性格を相対化しながら考察する必要があること，さらに戦争をベトナム，ラオス，カンボジアといったインドシナ地域に限定せず，タイ，ミャンマーを含めた地域間の関連性を考慮して考察することが重要であることが認識された。

②「地域住民の生存戦略」に対する認識

さらに，研究会における議論の中で，戦争に対する地域住民の対応について，次の 4 点について認識することが重要であることを認識できた。第 1 に，「政治家や革命家ではなく，戦争を経験した生活者の視点から戦争を問い直す」という点である。ベトナム戦争など，東南アジア大陸部の戦争について，国際関係論や外交史の分野で，政治家たちによる戦争の決定過程や革命家たちによる革命思想を分析した研究は多いが，戦争が社会に対して与えた影響を明らかにするためには，戦争がその地域に住んでいた人たちにどのように受けとめられ，彼らがどのように対応し，その対応が社会をどのように変化させていったのか，といった「生活者の視点」から考察することが必要不可欠であることが認識された。

第 2 に，「戦争犠牲者」としての地域住民像を相対化して考察することが重要であるという点である。ベトナム戦争をはじめ，この地域の戦争では，対ゲリラ戦，空爆，地雷などによって民間人に多くの犠牲者が発生した。地域住民を戦争犠牲者として捉えて考察することは，戦争を断罪する意味で重要であるが，戦争の犠牲者としての地域住民像では，地域住民を戦争から逃げ惑い，政府の政策や軍に従うしかない無力な（受動的な）存在として位置づけてしまう可能性がある。しかし，地域住民は，戦争という非常事態の中で，戦闘行為に巻き込まれることを回避し，軍隊からの徴兵を逃れ，闇行為を行いながらも生き延びようとする主体的な存在であった。従って，戦争に対する地域住民の様々な「生存戦略」に着目することで，彼らが戦中・戦後の社会形成の主体だった可能性を示すことが重要であることが認識された。

第 3 に，「ナショナリズム運動を支える地域住民」としての地域住民像を相対化して考察することが重要であるという点である。この地域の戦争は，植民地からの独立や民族の統一といったナショナリズムが大きな影響を持った戦争という側面を持ち，村人たちの貢献が戦争の勝利に結びついた点が指摘されてきた。しかし，ラオス，カンボジア，戦後に北ベトナムに接収された南ベトナムの住民たちなど，「自由世界の防衛」と「民族の独立・統一」に挟まれた人々が，この地域の戦争をどのように受け取り，自らの社会を変化させたのかという視点が見過ごしてしまう可能性があり，地域住民を一面的に捉えずに考察することが重要であることが認識された。

第 4 に，戦中・戦後の社会変化の連続性に着目し，「これまで記録されなかった戦争経験者の声」から戦後の社会変化を問い直すことの重要性である。これまで，東南アジア大陸部の社会変化について，戦争期からの連続性という視点からとらえられる研究は少なく，さらに，避難民，女性，少数民族，あるいは，投降した元反政府活動家といった地域住民たちが社会変容に与えた

影響については，ほとんど考察されていない。しかし，これらの公的に記録されない人たちも戦後の地域社会の発展に貢献したはずであり，彼らの経験を集め，分析することが重要であることが認識された。

③研究手法としてのオーラル・ヒストリーの重視

前述の分析枠組みに従って考察するために，本研究では，オーラル・ヒストリーの手法を重視することになった。オーラル・ヒストリーには，公人を対象としてインタビューを行い，政府機関の政策決定過程などを明らかにする手法もあるが，本研究では，農民，少数民族，被差別民など，公的に文章で記録されない人々の声をインタビューによって記録し，歴史を再考する手法としてのオーラル・ヒストリーを用いて現地調査し，分析を行った。

４．研究成果

（1）研究の主な成果

本研究による成果は，主に下記の 2 点である。

①被戦争社会における地域住民の生存戦略

本共同研究では，各メンバーが，北部ベトナム，東北タイ，ラオス中部地域，カンボジア・シェムリアップ，タイ北部山地，ミャンマー・中国国境周辺地域，南部ベトナムにおいて現地調査を実施した。その結果，戦中・戦後における地域住民の生存戦略として，次の 3 点が明らかになった。

第 1 に，彼らは戦中・戦後において，「国家政策からの選択的逸脱」によって生存を維持してきた，という点である。これは，国家に対する反抗や国家の支配からの逃避というものではなく，地域住民が自らの生存を維持するという目的のために，「従うもの，従わないもの」を意図的かつ主体的に選択･交渉し，時には国家政策をも逆手にとって利用する性質のものである。例えば，北部ベトナムの戦争では，アメリカ軍による激しい爆撃の下で，多くの男性を兵士として南部の前線に送り続けると同時に，彼らが戦地で消費する食糧の生産を継続しなければならない総力戦であり，その結果，銃後に残った女性たちが，地域の防衛，食料の生産，家族のケアという大きな負担を負うことになった。その中で，女性たちは，家族のケアを維持するために、国家の政策である合作社での集団労働を時折サボタージュして闇商売を行うなど逸脱行為を行っていた。また，東北タイにおいては，政府に対して抵抗活動を行っていた元タイ国共産党員が，投降後に国軍と交渉し，他の住民よりも有利な条件で生活を改善している事例がみられた。本来，政府や国軍からみれば，タイ国共産党員は「反逆者」であったはずだが，投降者たちは，国軍側が自らを「内戦の勝利者」，「国家の防衛者」ということを示したいと考えている点を利用し，国家から生活再建のためにより良い条件を引き出していた。

第 2 に，戦争避難民や武装勢力が，戦争にともなう新たな環境・条件の下で生業転換することによって，生存を維持していたという点である。東南アジア大陸部の戦争では，多くの地域住民たちが移住を経験したという共通点がある。この移住の過程で，元の居住地を離れる，あるいは新たな居住地での土地獲得が困難であるという制約を受ける中で，域外との関係を使って生業を転換する，従来の生業の活動範囲を広げる，あるいは，移住先で新しい資源を発見する，など，地域住民たちが主体的に生業を変化させることで生活再建を行っていることが明らかになった。例えば，ラオス中部地域では，軍隊によって組織的移住が行われた地域住民たちが，移住先において，海外に亡命した家族との商売や，ゴム植林を展開するといった生業転換を行っていた。カンボジア・シェムリアップでは，ポル・ポト政権の政策により地域住民の強制移住が行われ，長期の内戦により多くの寡婦が生み出されていたが，この地域が他の地域より治安が早く回復して商業や長距離の移動が可能になってくると，戦争寡婦たちは，農業以外にも米粉の麺や蒸し菓子を作って販売するなど商業生活を活発化し，集団でタイ国境地域まで商業活動を行っていた。タイ北部山地では，中国国共内戦から逃れた中国国民党軍の残党が流入し，タイ国共産党と右派の「赤い野牛」派の闘争の山地部への波及，ミャンマーでの国軍と少数民族軍の間での戦闘からの避難などの形で漢人武装勢力や少数民族たちが流入していたが，これら流入してきた武装勢力が，現地で「山茶」という資源を再発見してこれを商品化し，近隣の少数民族たちを農園労働者として引き寄せるなど，山地人口の急増と人口構成の変化を生む要因を生み出していた。

第 3 に，戦中・戦後において，地域住民たちが宗教活動を通じて生存を維持し，自らのアイデンティティーや社会的地位の回復を行ってきた，という点である。例えば，ミャンマー・中国国境地域においては，少数民族軍による徴兵が村人たちにとって大きな負担になっているが，地域住民は，村を離れて，僧侶のなり手が減少している都市部の寺院に入り，出家者として活動することで徴兵を逃れていた。一方，ベトナム南部の事例では，大規模な戦争だったために，戦場から避難するに際しては，宗教や民族といった属性を区別せずに住民たちが共に避難を行っていたが，ベトナム戦争終結後に南北統一が行われると，かつて旧政権下で生活していた元避難民たちは，公的地位につくことが制限されていた。その中で，避難民たちは宗教活動を通じて社会的地位とアイデンティティーを回復していた。

②「被戦争社会」における社会変容に関する仮説

本研究によるもう一つの成果は，「被戦争社会」の社会変容に関する仮説の提示である。本研

究の目的は，東南アジア大陸部を「被戦争社会」として位置づけ，社会変容を再考することであった。現地調査と研究会での議論に基づいて「東南アジア大陸部の被戦争社会」について考察した結果，東南アジア大陸部の被戦争社会とは，「戦争を契機とする分断と協働が複雑に入り込み，新たな生業の展開と社会関係が構築されつつある社会」として把握することが可能ではないか，とする仮説を提示した。

東南アジア大陸部を「戦争を契機とする分断を内包する社会」と捉える意味は，イデオロギー上の分断，勝者と敗者の分断，加害者と被害者の分断という意味ではなく，戦争にともなった自発的・強制的な移住・避難によって，かつて居住していた場所，所有していた財産，従来の生業から切り離される「空間的な分断」が生じていたということである。それによって，彼らは持っていた財産や生業を放棄せざるを得ない状況に置かれ，移動先で新たな生業を模索しなければならなかった。また，「空間的な分断」だけでなく，南部ベトナムでは，同じ避難民でも，かつて革命兵士として協力した家族とそうでない家族の間において公的社会において格差が生じるなど，戦争による「社会的分断」を内包する社会であった。このように東南アジア大陸部の戦争は，同じ民族やコミュニティー内においても分断を内包しており，地域住民による「過去の分断を克服する試み」は，現在も進行中であるといえる。

また，東南アジア大陸部を「戦争を契機とする協働を内包する社会」と表現する意味は，東南アジア大陸部では，戦争によって異なる民族集団や宗教集団が同じ地域に混住する，あるいは，お互いに交流せざるを得ない状況を生んでいたという点である。戦場の中を逃れて避難する際には，同じ宗教集団の人たちの間だけで助け合うのではなく，同じ境遇に置かれた人たちが一緒に避難し，避難後も助け合って生活する必要性が生じた。これは，民族や宗教といった差異を越えた「水平的な協働関係」といえる。さらに，戦中・戦後に地域住民が生存する中で，地域住民の活動が政府の政策意図から逸脱しているにも関わらず，かれらの生存維持が政府・軍にとっても戦争遂行や戦後の治安維持といった面で重要であるがゆえに，それらの行為が黙認され，時には支援されるという，政府・軍と地域住民の間での選択的な互恵関係が生じていた。このように戦争を契機に，通常なら予期されないような「垂直的な協働関係」が形成されていた。

さらに，このような「水平的な協働関係」や「垂直的な協働関係」は，この地域に，新たな生業転換と社会関係を形成している可能性がある。例えば，政府の政策についても，女性たちにとっては戦時下の北部ベトナムでの農業合作社が家族のケアを支えるセイフティーネットとして十分に機能せず，女性たちが合作社の活動から選択的に逸脱するという生存戦略をとっていた。このような行為が，戦後に農業合作社が解体される政策転換につながった可能性がある。経済面についても，ラオスにおける元避難民によるゴム植林，カンボジアにおける寡婦の商業活動，タイ北部山地の山茶の商品化のように，戦争を経験した地域住民の生業転換が，その後の東南アジア大陸部の市場経済化やグローバル化と結びついて地域の経済発展につながるなど，地域の経済・社会の発展のダイナミズムを生んでいる可能性がある。社会面についても，戦争によって移住した避難民たちによる共存がコミュニティーの拡大を生み，町に発展するなど地域発展の原動力になっている事例があった。さらに，ミャンマーの事例のように，戦争から避難した住民たちが，労働力としてミャンマー・中国地域の経済発展を支える，あるいは経済の発展にともなって出家者が減少している都市部の宗教活動を支えるなど，戦争と結びついた経済・社会の変化が生じている。そして，この地域における地域住民による信仰と宗教的なネットワークの復活や発展は，地域住民が，被戦争社会の中に真の「戦後」をもたらそうとする活動の結果である可能性がある。

上記のように，本研究は，東南アジア大陸部を「被戦争社会」として捉えることによって，この地域が，戦中・戦後に戦争避難民，女性，少数民族，投降者などの地域住民たちが，自らの生存戦略を模索したことにより，生業や社会関係をダイナミックに変化させている地域であると捉える，新たな視点と仮説を提示することができた。

（2）得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

本共同研究によって得られた知見と成果については，日本学術振興会平成 31 年度科学研究費助成事業研究公開促進費（課題番号 19HP5115）による出版助成を得て，瀬戸裕之・河野泰之（編著）『東南アジア大陸部の戦争と地域住民の生存戦略－避難民・女性・少数民族・投降者からの視点』明石書店，2020 年として出版した。今後，学会誌の書評など，学界をはじめとする様々な読者からの評価を待つことにする。

（3）今後の展望

本共同研究では，各地域で特徴的な事象を抽出し，被戦争社会に対する仮説を提示する作業に留まるものである。したがって，扱った事例の数も限定されており，本研究によって提示した仮説を実証するまでには至っていない。今後は，仮説を立証するために，より多くの事例を収集し，地域住民の生存戦略が地域社会の変容に与えた影響について，さらに調査・分析作業を行うことが必要である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計26件（うち査読付論文　16件／うち国際共著　6件／うちオープンアクセス　13件）

１．著者名 Shinsuke Tomita, Mario Ivan Lopez, and Yasuyuki Kono	４．巻 8
２．論文標題 The Role of Small-Scale Farming in Familial Care: Reducing Work Risks Stemming from the Market Economy in Northeast Thailand	５．発行年 2018年
３．雑誌名 International Journal of Social Quality	６．最初と最後の頁 88-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.3167/IJSQ.2018.080106	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 Yasuyuki Kono, Takahiro Sato, Kazuo Watanabe, Shinsuke Tomita and Le Zhang	４．巻 Year 2018
２．論文標題 Reconsidering development mechanisms of tropical agriculture: Focusing on micro-development in Mainland Southeast Asia	５．発行年 2018年
３．雑誌名 Environmental Resources Use and Challenges in Contemporary Southeast Asia	６．最初と最後の頁 21-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 Xiaobo Hua, Yasuyuki Kono, Le Zhang, Erqi Xu and Renshan Luo	４．巻 84
２．論文標題 How transnational labor migration affects upland land use practices in the receiving country: Findings from the China-Myanmar Borderland	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Land Use Policy	６．最初と最後の頁 163-176
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.1016/j.landusepol.2019.03.012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 Xiabo Hua and Yasuyuki Kono	４．巻 Vol.15, No.1
２．論文標題 Reconsidering land system changes in the borderlands: Insights from the China-ASEAN borderland	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Problemy Ekorozwoju	６．最初と最後の頁 179-187
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Tuyen Nghiem, Yasuyuki Kono and Stephen J. Leisz	4．巻 Vol.9, No. 56
2．論文標題 Crop Boom as a Trigger of Smallholder Livelihood and Land Use Transformations: The Case of Coffee Production in the Northern Mountain Region of Vietnam	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Land	6．最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/land9020056	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 佐藤奈穂	4．巻 Vol. 14, No.2
2．論文標題 物乞いを生み出す社会・経済的要因-カンボジア　シェムリアップ州中心部を事例として-	5．発行年 2018年
3．雑誌名 金城学院大学論集　社会科学編	6．最初と最後の頁 13-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 瀬戸裕之	4．巻 16・17合併号
2．論文標題 2015年のラオス憲法改正に関する一考察-人権関連の法規定を中心に-	5．発行年 2019年
3．雑誌名 社会体制と法	6．最初と最後の頁 32-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 瀬戸裕之	4．巻 第4号
2．論文標題 司法省元高官の視点からみるラオス現代史-フイ・ポンセーナー博士の経験から-	5．発行年 2019年
3．雑誌名 新潟国際情報大学国際学部紀要	6．最初と最後の頁 21-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岩井美佐紀	4．巻 第46号
2．論文標題 書評：Sari K.Ishii eds. Marrage Migration in Asia: Emerging Minorities at the Frontiers of Nation-States, Kyoto: CSEAS Series on Asian Studies 16 Singapore: National University of Singapore. 2016.	5．発行年 2017年
3．雑誌名 東南アジア-歴史と文化	6．最初と最後の頁 53-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kono, Y. Promkhambut, and T.A.Rambo	4．巻 Vol. 6, No.2
2．論文標題 Introduction: Rural Notheast Thailand in Transition: Recent Changes and Their Implications for the Long-term Transformation of the Region	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Southeast Asian Studies	6．最初と最後の頁 207-209
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20495/seas.6.2_207	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 片岡樹	4．巻 14号
2．論文標題 書評：津田浩司・櫻田涼子・伏木香織編『「華人」という描線-行為実践の場からの人類学的アプローチ－』」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 華僑華人研究	6．最初と最後の頁 64-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Dao Minh Truong, Yanagisawa, M. and Kono, Y.	4．巻 ７６
2．論文標題 Forest Transition in Vientnam: A Case Study of Northern Mountain Region	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Forest Policy and Economics	6．最初と最後の頁 72-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 片岡樹	4．巻 13号
2．論文標題 架空の識字力-現代タイ国における漢文経典の知識をめぐって	5．発行年 2016年
3．雑誌名 華僑華人研究	6．最初と最後の頁 7-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Futoshi Nishimoto	4．巻 15
2．論文標題 Household clustering of asymptomatic malaria infections in Xepon district, Savannakhet province, Lao PDR	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Malaria Journal	6．最初と最後の頁 508
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12936-016-1552-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Futoshi Nishimoto	4．巻 44
2．論文標題 Morbidity assessment of Opisthorchis viverrini infection in rural Laos: I. Parasitological, clinical, ultrasonographical and biochemical findings	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Tropical Medicine and Health	6．最初と最後の頁 12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s41182-016-0012-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Futoshi Nishimoto	4．巻 15
2．論文標題 Asymptomatic malaria, growth status, and anaemia among children in Lao People's Democratic Republic: a cross-sectional study	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Malaria Journal	6．最初と最後の頁 499
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12936-016-1548-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 大野美紀子	4．巻 27
2．論文標題 書評：ヴー・ティ・フン，グエン・ヴァン・ハム，グエン・レ・ニュン著，伊澤亮介訳「ベトナムアーカイブズの成立と展開：阮朝期・フランス植民地期・そして1945年から現在まで」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 記録と資料	6．最初と最後の頁 92-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 瀬戸裕之	4．巻 9号
2．論文標題 1991年憲法制定前におけるラオス地方議会法制の変遷	5．発行年 2016年
3．雑誌名 アジア法研究	6．最初と最後の頁 241-260
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Masao Imamura	4．巻 75(4)
2．論文標題 Slow Anthropology: Negotiating Difference with the lu Mien by Hjorleifur Jonsson	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Journal of Asian Studies	6．最初と最後の頁 1164-1165
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Keita Kurabe and Masao Imamura	4．巻 75
2．論文標題 Orthography and Vernacular Media: the Case of Jinghpaw-Kachin	5．発行年 2016年
3．雑誌名 IIAS The Newsletter	6．最初と最後の頁 36-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 今村真央	4．巻 53（2）
2．論文標題 （書評）クリスチャン・ダニエルス編『東南アジア山地研究は地域研究として成り立つのか？』	5．発行年 2016年
3．雑誌名 東南アジア研究	6．最初と最後の頁 279-286
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 片岡　樹	4．巻 53
2．論文標題 山地からみたブンチュム崇拝現象－ラフの事例－	5．発行年 2015年
3．雑誌名 東南アジア研究	6．最初と最後の頁 100-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Takayuki Kurashima, Toshiya Matsuura, Asako Miyamoto, Makoto Sano, Sophal Chann	4．巻 6（9）
2．論文標題 Considering the Practical Rationality of Experimental Operation in Developing Countries: Reality and Challenges under a Rigid Community Forestry System in Cambodia	5．発行年 2015年
3．雑誌名 Forests	6．最初と最後の頁 3087-3108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/f6093087	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小島敬裕	4．巻 53巻1号
2．論文標題 山地民パラウンの越境と仏教実践の独自性－ミャンマー・シャン州ナムサン周辺地域の事例から	5．発行年 2015年
3．雑誌名 東南アジア研究	6．最初と最後の頁 9-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Imamura Masao	4．巻 4 (1)
2．論文標題 <Review article>Mandy Sadan, Being and Becoming Kachin: Histories Beyond the State in the Borderworlds of Burma	5．発行年 2015年
3．雑誌名 Southeast Asian Studies	6．最初と最後の頁 199-206
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Le Zhang, Yasuyuki Kono, Shigeo Kobayashi, Huabin Hu, Rui Zhou and Yaochen Qin	4．巻 42
2．論文標題 The expansion of smallholder rubber farming in Xishuangbanna, China: A case study of two Dai villages	5．発行年 2015年
3．雑誌名 Land Use Policy	6．最初と最後の頁 628-634
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.landusepol.2014.09.015	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計85件（うち招待講演　8件／うち国際学会　27件）

1．発表者名 Yasuyuki Kono
2．発表標題 Development process of smallholders agriculture in Thailand: Perspectives from a long-term observation at a Northeastern Thai village
3．学会等名 2nd Small Farm Precision Agriculture Seminar (at Bangkok)（国際学会）
4．発表年 2018年

1．発表者名 Yasuyuki Kono
2．発表標題 Area Studies of the Anthropocene Era
3．学会等名 Kyoto University International Symposium (at Kyoto)（国際学会）
4．発表年 2018年

１．発表者名 Yasuyuki Kono
２．発表標題 Reconsidering the role of area studies: Perspectives from Southeast Asian studies in Japan
３．学会等名 The First Tsinghua Area Studeis Forum (at Beijing)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yasuyuki Kono
２．発表標題 Where we are going, What makes our society sustainable ?
３．学会等名 Southeast Asian Network Forum 2019 (at Putrajaya)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yasuyuki Kono
２．発表標題 Where we should go, how we should do: Towards sustainable society
３．学会等名 International Conference on Environment and Sustainable Development (at Macassar)（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Yasuyuki Kono
２．発表標題 Changes in agriculture and rural livelihood of mountainous region of Mainland Southeast Asia
３．学会等名 International Conference in School of Ethnology and Sociology, Yunnan University (at Kunming)（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 岩井美佐紀
２．発表標題 総力戦期におけるベトナム北部地域住民の生存戦略-女性たちの経験と語りから-
３．学会等名 日本ベトナム研究者会議（東京大学）
４．発表年 2018年

１．発表者名 岩井美佐紀
２．発表標題 総力戦期におけるベトナム北部地域住民の生存戦略-女性たちの経験と語りから-
３．学会等名 東南アジア学会第99回研究大会、パネル報告「東南アジア大陸部の被戦争社会と地域住民の生存戦略」（北九州大学）
４．発表年 2018年

１．発表者名 佐藤奈穂
２．発表標題 ポル・ポト時代後における女性たちの生計戦略-カンボジア・シェムリアップ州を事例として-
３．学会等名 日本ベトナム研究者会議（東京大学）
４．発表年 2018年

１．発表者名 佐藤奈穂
２．発表標題 ポル・ポト時代後における女性たちの生計戦略-カンボジア・シェムリアップ州を事例として-
３．学会等名 東南アジア学会第99回研究大会、パネル報告「東南アジア大陸部の被戦争社会と地域住民の生存戦略」（北九州大学）
４．発表年 2018年

１．発表者名 小島敬裕
２．発表標題 ミャンマー最北端における宗教実践の動態
３．学会等名 東南アジア学会北海道・東北地区特別例会
４．発表年 2018年

１．発表者名 片岡樹
２．発表標題 山茶と冷戦-東南アジア大陸部山地の人口変動をめぐって-
３．学会等名 東南アジア学会第99回研究大会（北九州大学）
４．発表年 2018年

１．発表者名 片岡樹
２．発表標題 廃社を拝む-愛媛県菊間町の祭祀にみる「神々の明治維新」-
３．学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会（弘前大学）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Tatsuki Kataoka
２．発表標題 Toa Peh Kong and Pun Thao Kong: Variations of Chinese Guardian Spirits of Locality in Southeast Asia (paper presentation)
３．学会等名 The International Workshop on "Chinese Temples in Southeast Asia" at National University of Singapore（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 片岡樹
２．発表標題 東南アジア研究者が見た日本宗教
３．学会等名 現代民俗学会2019年度年次大会（お茶の水女子大学）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Tatsuki Kataoka
２．発表標題 The Workshop of Guardians of the Locality among Diaspora Chinese in Southeast Asia
３．学会等名 The 11 the International Convention of Asia Scholars Conference (paper presentation)（at Leiden University）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 片岡樹
２．発表標題 タイ国の大乗仏教教団
３．学会等名 東南アジア学会第101回研究大会（静岡県立大学）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Tatsuki Kataoka
２．発表標題 Thai Religious System as Viewd from the Kenmitsu (Exoteric-Esoteric Buddhism) Theory of Japanese Religion: A Preliminary Study
３．学会等名 The SEASIA 2019 Conference (pater presentation)
４．発表年 2019年

１．発表者名 瀬戸裕之
２．発表標題 パネル報告「東南アジア大陸部における被戦争社会の変容と地域住民-趣旨説明-」
３．学会等名 ベトナム日本研究者会議（東京大学）
４．発表年 2018年

１．発表者名 瀬戸裕之
２．発表標題 パネル報告「東南アジア大陸部の被戦争社会と地域住民の生存戦略-趣旨説明-」
３．学会等名 東南アジア学会第99回研究大会、パネル報告「東南アジア大陸部の被戦争社会と地域住民の生存戦略」（北九州大学）
４．発表年 2018年

１．発表者名 瀬戸裕之
２．発表標題 ラオス中部地域にみる被戦争社会の変容と地域住民の生存戦略-戦争期の強制移住と生活再建を中心に-
３．学会等名 東南アジア学会第99回研究大会、パネル報告「東南アジア大陸部の被戦争社会と地域住民の生存戦略」（北九州大学）
４．発表年 2018年

１．発表者名 IWAI Misaki
２．発表標題 Citizenship of 'Children without a Homeland' in Vietnam: From the Case of the Mekong Delta Region
３．学会等名 Children of Migration in Asia（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 倉島孝行
２．発表標題 東北タイ東部の元タイ国共産党員らとその家族の50年
３．学会等名 東南アジア学会関西例会(2017年7月)
４．発表年 2017年

１．発表者名 Takayuki Kurashima, Toshiya Matsuura, Asako Miyamoto, Makoto Sano, Hap Gong, Sophal Chann
２．発表標題 Reaffirming the necessity of an orthodox pathway based on ongoing multiple realities: A case study in a plannned REDD+ pilot project area in central Cambodia
３．学会等名 International Workshop on Exploring Desirable Path of Agriculture and Rural Development in Asia（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Ono Mikiko
２．発表標題 The emargence of a new economic village in Mekong Delta after Doimoi policy
３．学会等名 International Workshop "30 years after doi moi policy in Vietnam" Center for Asia-Pacific Area studies, Academia Sinica
４．発表年 2017年

１．発表者名 西本太，白川千尋
２．発表標題 ラオス農村の人口動態と家族計画
３．学会等名 日本人口学会第69回大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Futoshi Nishimoto, Satoshi Kaneko, Junko Okumura, Tiengkham Pongvongsa, Kazuhiko Moji, Sengchanh Kounnavong
２．発表標題 Child mortarity reduction in rural Laos
３．学会等名 Lao PDR 11th national Health Research Forum
４．発表年 2017年

１．発表者名 西本太，高橋眞一，白川千尋，横山智
２．発表標題 現代ラオス農村部の人口転換と生業変化
３．学会等名 第82回日本健康学会総会
４．発表年 2017年

１．発表者名 西本太
２．発表標題 ホーチミントレイルとラオス南部山地社会の協力者
３．学会等名 東南アジア学会関東例会（2017年度第4回）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Takahiro Kojima
２．発表標題 Lay Experts in Reciting Buddhist Texts in Contemporary Myanmar
３．学会等名 Consortium for Southeast Asia Studies in Asia Conference 2017, "Unity in Diversity: Transtressive Southeast Asia", Chulalongkorn University
４．発表年 2017年

１．発表者名 小島敬裕
２．発表標題 ミャンマーにおける戦争と中国国境周辺地域の変容-少数民族パラウンの生存の技法に注目して
３．学会等名 東南アジア学会関東例会（2017年度第4回）
４．発表年 2018年

１．発表者名 河野泰之
２．発表標題 研究「展開」のメカニズム
３．学会等名 京都大学学術研究支援室成果公開シンポジウム「京大式～研究力強化の本質」（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Kono, Yasuyuki
２．発表標題 Tropical agriculture toward the future: A Sustainable Humanosphere studies viewpoint
３．学会等名 Bilateral Symposium "Technology the rules of Mathmatics and Sciences for Sustainable Development"（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Kono, Yasuyuki
２．発表標題 Frontier of Southeast Asian Studies in Japan
３．学会等名 International Conference on the 90th Aniversary of Southeast Asian Studies and Overseas Chinese Studies（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Kono, Yasuyuki
２．発表標題 Beyond the 20th century paradigm of development: Tropical agriculture in the 21st century
３．学会等名 International Da'wah Conference 2017 "Da'wah in 21st Century: Bridging Diversity, Enriching Humanity"（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Kono, Yasuyuki
２．発表標題 Future Asia: Society-base Interdisciplinary Approach
３．学会等名 PAWEES 2017 International Conference "Sustainable Water and Environmental Management"（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Kono, Yasuyuki
２．発表標題 Industrializing Agriculture in Southeast Asia
３．学会等名 SEASIA2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 片岡樹
２．発表標題 神様未満？-東予の牛鬼に関する予備調査報告-
３．学会等名 日本文化人類学会第51回研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Tatsuki Kataoka
２．発表標題 Literacy as Charisma: 'The Lost Book' and Prayer of the Lahu in Thailand and Burma
３．学会等名 SEASIA2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 瀬戸裕之
２．発表標題 ラオス中部における被戦争社会の変容とレジリエンス－戦争期の住民移住を中心に－
３．学会等名 東南アジア学会関西例会（2017年7月）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yasuyuki Kono
２．発表標題 Introduction to Japan-ASEAN Science, Technology and Innovation Platform
３．学会等名 Kyoto University-The Thailand Research Fund (TRF) Seminar
４．発表年 2016年

１．発表者名 河野泰之
２．発表標題 熱帯から考える未来社会-東南アジア研究から-
３．学会等名 日立京大ラボ開所式及び記念シンポジウム-ヒトと文化の理解に基づく基礎と学理の探求
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yasuyuki Kono
２．発表標題 Japan-ASEAN Sciencei, Technology and Innovation Platform
３．学会等名 Kyoto-ASEAN Forum 2016
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yasuyuki Kono
２．発表標題 Talent mobility between Japan and ASEAN: Challenges of JASTIP
３．学会等名 ASEAN STI Forum: Shaping the Future of ASEAN Innovation（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yasuyuki Kono
２．発表標題 Japan-ASEAN Science, Technology and Innovation Platform
３．学会等名 3rd JASTIP Symposium "ASEAS-Japan STI Collaboration for SDGs"
４．発表年 2017年

１．発表者名 Takahiro Kojima
２．発表標題 Local Villagers ’Lives and the Endless Conflict in Myanmar: Cases of Ta'ang from Northern Shan State
３．学会等名 Dynamic Borderlands: Livelihoods, Communities and Flows
４．発表年 2016年

１．発表者名 小島敬裕
２．発表標題 ミャンマーにおける「パラウン仏教」の創出とその実態について
３．学会等名 南伝上座仏教と現代
４．発表年 2016年

１．発表者名 小島敬裕
２．発表標題 現代ミャンマーにおける在家仏教徒の朗誦専門家たち
３．学会等名 東南アジア学会第95回研究大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 片岡樹
２．発表標題 タイにおける漢文経典朗誦
３．学会等名 東南アジア学会第95回研究大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 片岡樹
２．発表標題 ＜ヤシガラ椀＞の外をフィールドで学ぶ-東南アジア大陸山地民研究再考-
３．学会等名 東南アジア学会第95回研究大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 Tatsuki Kataoka
２．発表標題 Indigenization and Exclusiveness: Truth Claim and the Redefinition of Religion among the Lahu Christians in Thailand
３．学会等名 the AAS-in-Asia Conference 2016
４．発表年 2016年

１．発表者名 Tatsuki Kataoka
２．発表標題 Straits Chinese outside the Straits: Baba-ness Reflected in Epigraphs of the Baba Cemeteries in Thailand
３．学会等名 the 9th International Conference of the International Society for the Study of CHinese Overseas
４．発表年 2016年

１．発表者名 Futoshi Nishimoto, PRELIC Team
２．発表標題 Household Population Dynamics and Livelihood Changes in a Rice Farming Village in Central Laos
３．学会等名 the 33rd International Geographical Congress
４．発表年 2016年

１．発表者名 Futoshi Nishimoto, Satoshi Kaneko, Jiang Hongwei, Satoshi Yokoyama, Junko Okumura, Megumi Sato, Tiengkham Pongvongsa, Jun Kobayashi, Daisuke Nonaka, Kazuhiko Moji, Sengchanh Kounnavong
２．発表標題 HDSS: Twelve years field research experience in Lao PDR
３．学会等名 the 10th Lao PDR national Health research Forum
４．発表年 2016年

１．発表者名 西本太，白川千尋
２．発表標題 ラオス農村の人口動態と家族計画
３．学会等名 日本人口学会第69回大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 大野美紀子
２．発表標題 東南アジアにおけるマイクロ資料保存の現況
３．学会等名 資料保存研究会
４．発表年 2016年

１．発表者名 瀬戸裕之
２．発表標題 ASEAN共同体の発足をめぐるラオス憲法体制の変化-2015年憲法改正を中心に-
３．学会等名 「社会体制と法」研究会
４．発表年 2016年

１．発表者名 今村真央
２．発表標題 Religious Networking among Migrants: The Case of the Kachin People from Highland Myanmar
３．学会等名 Joint Research Forum on Migration
４．発表年 2017年

１．発表者名 今村真央
２．発表標題 移動・越境・翻訳：宗教研究から見る東南アジア研究の過去10年
３．学会等名 東南アジア学会第96回研究大会（50周年シンポジウム）
４．発表年 2016年

１．発表者名 今村真央
２．発表標題 「スケール」という概念について：世界史，帝国，非国家主体
３．学会等名 北東アジア学会大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 瀬戸　裕之
２．発表標題 一党支配体制における党と議会の関係－ラオスの地方行政を中心に－
３．学会等名 アジア法学会
４．発表年 2015年

１．発表者名 片岡　樹
２．発表標題 架空の言語と架空の識字力？－タイ国における大乗系漢文経典の知識－
３．学会等名 日本文化人類学会第49回研究大会
４．発表年 2015年

１．発表者名 Kataoka Tatsuki
２．発表標題 Baba Cemeteries in Thailand
３．学会等名 the IUAES Inter-Congress 2015
４．発表年 2015年

１．発表者名 Kataoka Tatsuki
２．発表標題 A New Hybrid Chinese Used in Mahayana Chanting among the Chinese Immigrants of Thailand
３．学会等名 the 6th International Conference of Institutes and Libraries for Chinese Overseas Studies（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Kataoka Tatsuki
２．発表標題 Command on the Forests: International Relations of Southeast Asia as Viewd from the Highlands
３．学会等名 the Southeast Asian Studies in Asia, 2015 Conference（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 片岡　樹
２．発表標題 タイ国の中華系大乗仏教
３．学会等名 2015年華僑華人学会研究大会
４．発表年 2015年

１．発表者名 西本　太
２．発表標題 ラオス山村地域における多産多死の生活世界：人口人類学的研究
３．学会等名 日本人口学会第77回九州地域部会
４．発表年 2015年

１．発表者名 西本　太，白川千尋
２．発表標題 ラオス中部K村の世帯構成の変化：人口・生業との関係
３．学会等名 人文地理学会大会
４．発表年 2015年

１．発表者名 Nishimoto Futoshi et al.
２．発表標題 Differential Infant Mortality Rates between Home-Delivery and Facility-Delivery
３．学会等名 The 9th Laos National Health Research Health Forum
４．発表年 2015年

１．発表者名 Nishimoto Futoshi et al.
２．発表標題 Fertility Decline and Transnational Mothering in a Rural Village of Laos
３．学会等名 The 2015 IGU Regional Conference（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 西本　太
２．発表標題 家計図復元調査によるラオス南部水田農村の結婚と出生力
３．学会等名 日本人口学会第67回大会
４．発表年 2015年

１．発表者名 Nishimoto Futoshi et al.
２．発表標題 HDSS as a Platform for Opisthorchiasis Research and Control in Laos
３．学会等名 International Congress of Liver Flukes and Cholangiocarcinoma
４．発表年 2015年

１．発表者名 倉島　孝行，竹田　晋也，松浦　俊也，宮本　麻子，佐野　真琴
２．発表標題 二つのRECOFTCと一つの解釈
３．学会等名 日本熱帯生態学会第25回大会
４．発表年 2015年

１．発表者名 小島　敬裕
２．発表標題 ミャンマーにおける宗教と身分登録
３．学会等名 エスニシティと身分登録：事例と討論ワークショップ
４．発表年 2015年

１．発表者名 Kojima Takahiro
２．発表標題 Religious Networks of Tai Buddhist across the China-Myanmar Border
３．学会等名 International Conference on Burma/Myanmar Studies, Burma/Myanmar iin Transition: Connectivity, Changes and Challenges（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Kojima Takahiro
２．発表標題 Tai Buddhist Practices and Cross-border Networks in the China-Myanmar Frontier
３．学会等名 Southeast Asian Studies in Asia (SEASIA) 2015 Conference（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Kojima Takahiro
２．発表標題 Palaung Orthography Development: Writing and the Politics of Ethnicity in Shan State, Myanmar
３．学会等名 Language, Power and Identity in Asia: Creating and Crossing Language Boundaries（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 今村　真央
２．発表標題 東南アジア大陸部山地史研究における歴史的想像の役割
３．学会等名 東南アジア学会第93回大会
４．発表年 2015年

１．発表者名 Imamura Masao
２．発表標題 Vernacularism and Protestantism among the Kachin of northern Myanmar
３．学会等名 Indigenous Christianity in the Asia-Pacific Region（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Imamura Masao
２．発表標題 Protestant vernacularism among the Kachin of northern Myanmar
３．学会等名 Southeast Asia Studies in Asia (SEASIA) 2015 Conference（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Imamura Masao
２．発表標題 Politisc of Kachin orthography: Large versus small group ethnic identification in highland Myanmar
３．学会等名 Language, Power and Identity in Asia: Creating and Crossing Language Boundaries（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Kono Yasuyuki
２．発表標題 Environment and Society: Exploring New Research Agenda
３．学会等名 Southeast Aisa Studies in Asia (SEASIA) 2015 Conference（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Kono Yasuyuki
２．発表標題 Southeast Asian Studies at Crossroad
３．学会等名 International Workshop on Southeast Asian Studies at Crossroad: Taiwan, Japan and the Region（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Shimada Yuzuru
２．発表標題 Democracy and Constitutionalism in Indonesian Constitutional Court: Discussion from the Cases on Education Expenses in the National Budget
３．学会等名 EuroSEAS 2015（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Shimada Yuzuru
２．発表標題 Succession of Judiciary from colony to the Independent Indonesia: The roots of bureaucratic judiciary and its weakness
３．学会等名 Asian Law Institute Annual Conference（国際学会）
４．発表年 2015年

〔図書〕　計31件

１．著者名 瀬戸裕之・河野泰之（編者）	４．発行年 2020年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 324頁
３．書名 東南アジア大陸部の戦争と地域住民の生存戦略-避難民・女性・少数民族・投降者からの視点	

１．著者名 増原綾子・鈴木絢女・片岡樹・宮脇聡・古屋博子（執筆分担）	４．発行年 2018年
２．出版社 有斐閣	５．総ページ数 324頁
３．書名 はじめての東南アジア政治（１、５、６、８、１１、14章を担当）	

１．著者名 片岡樹（分担執筆）	４．発行年 2019年
２．出版社 臨川書店	５．総ページ数 292頁
３．書名 「妖術師の肖像-タイ山地民ラフにおける呪術観念の離床をめぐって-」川田牧仁・白川千尋・関一敏編『呪者の肖像』	

１．著者名 片岡樹（分担執筆）	４．発行年 2019年
２．出版社 臨川書店	５．総ページ数 348頁
３．書名 「何をしたら宗教を『真剣にとりあげた』ことになるのか？-調律と複ゲームのフィールドワーク論-」杉島敬志編『コミュニケーション的存在論の人類学』	

１．著者名 片岡樹（分担執筆）	４．発行年 2020年
２．出版社 北樹出版	５．総ページ数 227頁
３．書名 「識字文化の諸相-本は読まないとダメですか？」岩野邦康・田所聖志・稲澤努・小林宏至編『ダメになる人類学』	

１．著者名 片岡樹（分担執筆）	４．発行年 2020年
２．出版社 北樹出版	５．総ページ数 227頁
３．書名 「宗教の定義をめぐる問題-信じてない神様を拝んじゃダメですか？-」岩野邦康・田所聖志・稲澤努・小林宏至編『ダメになる人類学』	

１．著者名 岩井美佐紀（分担執筆）	４．発行年 2020年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 324頁
３．書名 「総力戦期における北部ベトナムの地域住民の生存戦略-銃後の女性たちの経験と語りから-」瀬戸裕之・河野泰之編『東南アジア大陸部の戦争と地域住民の生存戦略-避難民・女性・少数民族・投降者からの視点-』	

１．著者名 倉島孝行（分担執筆）	４．発行年 2020年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 324頁
３．書名 「低強度戦と東北タイ辺境開拓史への背理/合理を生きた50年-ある共産党拠点跡地に暮らす農民の半生から-」瀬戸裕之・河野泰之編『東南アジア大陸部の戦争と地域住民の生存戦略-避難民・女性・少数民族・投降者からの視点-』	

１．著者名 瀬戸裕之（分担執筆）	４．発行年 2020年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 324頁
３．書名 「ラオス中部地域にみる被戦争社会の変容と地域住民の生存戦略-戦争期の組織的移住と生活再建を中心に-」瀬戸裕之・河野泰之編『東南アジア大陸部の戦争と地域住民の生存戦略-避難民・女性・少数民族・投降者からの視点-』	

1．著者名 佐藤奈穂（分担執筆）	4．発行年 2020年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 324頁
3．書名 「ポル・ポト時代後の内戦下における女性たちの生計戦略-カンボジア・シェムリアップ市を事例として-」瀬戸裕之・河野泰之編『東南アジア大陸部の戦争と地域住民の生存戦略-避難民・女性・少数民族・投降者からの視点-』	

1．著者名 片岡樹（分担執筆）	4．発行年 2020年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 324頁
3．書名 「山茶が動かす冷戦史-冷戦期タイ国北部山地における人口構成の変遷-」瀬戸裕之・河野泰之編『東南アジア大陸部の戦争と地域住民の生存戦略-避難民・女性・少数民族・投降者からの視点-』	

1．著者名 小島敬裕（分担執筆）	4．発行年 2020年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 324頁
3．書名 「ミャンマーにおける戦争と中国国境周辺地域の変容-少数民族タアーン（パラウン）の生存の技法」瀬戸裕之・河野泰之編『東南アジア大陸部の戦争と地域住民の生存戦略-避難民・女性・少数民族・投降者からの視点-』	

1．著者名 大野美紀子（分担執筆）	4．発行年 2020年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 324頁
3．書名 「マージナルな存在を生きる-ベトナム南部カトリック信徒の戦中・戦後史-」瀬戸裕之・河野泰之編『東南アジア大陸部の戦争と地域住民の生存戦略-避難民・女性・少数民族・投降者からの視点-』	

１．著者名 中牧弘允（編集）西本太（項目「ラオス人民共和国」の執筆担当）	４．発行年 2017年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 460頁
３．書名 世界の暦文化事典	

１．著者名 華僑華人の事典編集委員会（編）片岡樹（項目「華僑華人の宗教と倫理」の執筆担当）	４．発行年 2017年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 620頁
３．書名 華僑華人の事典	

１．著者名 桑山敬己・綾部真雄（編）片岡樹（項目「宗教と世界観」の執筆担当）	４．発行年 2018年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 400頁（うち133-147頁を担当）
３．書名 詳論文化人類学-基本と最新のトピックを深く学ぶ-	

１．著者名 志賀市子（編）片岡樹（項目「功徳がとりもつ潮州善堂とタイ仏教-泰国義德善堂の事例を中心に-」の執筆担当）	４．発行年 2018年
２．出版社 風響社	５．総ページ数 424頁
３．書名 潮州人-華人移民のエスニシティと文化をめぐる歴史人類学-	

１．著者名 河野泰之	４．発行年 2017年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 288頁（うち205-213頁を担当）
３．書名 「生存基盤とAC」，石川智士，渡辺一生（編）『地域が生まれる、資源が育てる-エリアケイパビリティーの実践』	

１．著者名 有元貴文，黒田壽，河野泰之，伏見浩，宮田勉，渡辺一生	４．発行年 2017年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 288頁（うち231-261頁を担当）
３．書名 「座談会　ACの達成と可能性」，石川智士，渡辺一生（編）『地域が生まれる、資源が育てる-エリアケイパビリティーの実践』	

１．著者名 Mieno, F., Okamoto, M., Kono Y., and Badenoch, N.	４．発行年 2017年
２．出版社 CSEAS	５．総ページ数 296頁
３．書名 Proceedings of International Symposium on Exploring Academic Frontiers for a Sustainable Future	

１．著者名 小島敬裕	４．発行年 2017年
２．出版社 愛知大学人文社会学研究所	５．総ページ数 168頁（うち107-132頁を担当）
３．書名 「ミャンマーにおける『パラウン仏教』の創出とその実態について」，伊東利勝編『南伝上座仏教と現代』	

１．著者名 Takahiro Kojima	４．発行年 2016年
２．出版社 National Museum of Ethnology	５．総ページ数 323頁（うち185-209頁を担当）
３．書名 Migration and the Remaking of Ethnic/Micro-Regional Connectedness	

１．著者名 Takahiro Kojima	４．発行年 2016年
２．出版社 ISEAS-Yusof Ishak Institute	５．総ページ数 398頁（うち369-387頁を担当）
３．書名 Myanmar's Mountain and Maritime Borderscapes: Local Practices, Boundary-making and Figured Worlds	

１．著者名 片岡樹	４．発行年 2017年
２．出版社 慶應義塾大学出版会	５．総ページ数 356頁（うち269-288頁を担当）
３．書名 「信仰の軸線-東南アジアにおいて『宗教を信じる』とは何を意味するか」，宮原暁編『東南アジア地域研究入門2　社会』	

１．著者名 片岡樹	４．発行年 2017年
２．出版社 京都大学付属図書館	５．総ページ数 315頁（うち215-240頁を担当）
３．書名 「『もうひとつの海峡世界』から見るインドネシア華人の移住」，北村由美編『20世紀アジアの国際関係とインドネシア華人の移動』	

１．著者名 Tastuki Kataoka	４．発行年 2017年
２．出版社 NIAS Press	５．総ページ数 266頁（うち217-246頁を担当）
３．書名 Charismatic Monks of Lanna Buddhism	

１．著者名 片岡樹	４．発行年 2016年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 1000頁（うち324頁を担当）
３．書名 「タイの神話」，篠田知和基・丸山顯徳編『世界神話伝説大事典』	

１．著者名 岩井美佐紀，大田省一，大野美紀子	４．発行年 2016年
２．出版社 神田外語大学出版局	５．総ページ数 294頁
３．書名 ベトナム「新経済村」の誕生	

１．著者名 佐藤奈穂	４．発行年 2017年
２．出版社 京都大学学術出版会	５．総ページ数 260頁
３．書名 カンボジア農村に暮らすメマーイ（寡婦たち）	

１．著者名 Minoru Teramoto, Nguyen Duc Chien, Misaki Iwai, Bui The Cuong	４．発行年 2017年
２．出版社 IDE-JETRO	５．総ページ数 79頁（うち31-44頁を担当）
３．書名 The Vietnamese Family during the Period of Promoting Industrialization, Modernization and International Integration	

１．著者名 今村真央	４．発行年 2016年
２．出版社 ナカニシヤ出版	５．総ページ数 330頁（うち267-272頁を担当）
３．書名 「少数民族と天然資源-ミャンマーでの連邦制をめぐる議論」，松尾英哉編『連邦制の逆説？-効果的な統治制度か』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	河野　泰之 (Kono Yasuyuki) (80183804)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・教授 (14301)	
研究分担者	片岡　樹 (Kataoka Tatsuki) (10513517)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授 (14301)	
研究分担者	岩井　美佐紀 (Iwai Misaki) (80316819)	神田外語大学・外国語学部・教授 (32510)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	小島　敬裕 (Kojima Takahiro) (10586382)	津田塾大学・学芸学部・准教授 (32642)	
研究分担者	倉島　孝行 (Kurashima Takayuki) (20533011)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・研究員 (14301)	
研究分担者	佐藤　奈穂 (Sato Nao) (10600108)	金城学院大学・国際情報学部・准教授 (33905)	
研究分担者	西本　太 (Nishimoto Futoshi) (60442539)	長崎大学・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・助教 (17301)	
研究分担者	今村　真央 (Imamura Masao) (60748135)	山形大学・人文社会科学部・准教授 (11501)	
研究分担者	大野　美紀子 (Ono Mikiko) (80406701)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・助教 (14301)	
研究協力者	島田　弦 (Shimada Yuzuru)		